

- 1 主題名 みんなのために  
内容項目 4－(2) 勤労  
資料名 「しょうぼうじどうしゃじぶた」 出典 福音館書店

## 2. 主題設定の理由

### (1) 主題について

内容項目4－(2)は「働くことのよさを感じて、みんなのために働く」である。仕事に対して誇りや喜びをもち、働くことの意義を自覚し、進んで社会に役立つと心をもった児童を育てることを目指した項目である。働くことは、自分のしたことが人のためになったり役に立ったりすることを通して、自分の存在感や充実感を味わえるものである。また働くときには、必ず人とのかかわりが生まれる。その中でさまざまなことを学ぶ機会にもなり、そこで学んだことは、人間として社会で生きていくために大切なことである。

この期の子どもたちは、働くことに意欲的で、取り組むこと自体を楽しく感じている。しかし、働いたそのあとに、自分がどう感じているかについては見つめていない児童がほとんどである。達成感や充実感は少しながらあるが、改めて考えたことは少ないと思われる。意欲的に取り組むこの期の子どもたちに、働くことで得られる充実感や達成感を十分に味わわせることは、これからの学校生活や社会生活でよりよく生きていくために大変重要だと考える。

そこで本主題では、働くとともによい気持ちになることを認識し、みんなのために働こうという心情を育てたい。資料をもとに、働いたあとにどんな気持ちになるかを話し合い、働くことのよさを十分に味わい、意識できるようにしたい。今まで無意識にしていた働くことについて、そのよさ意識し、さらに意欲的に取り組めるようになってほしいと考える。

### (2) 児童の実態 (男子14名 女子13名 計27名)

本学級の児童は、明るく素直な子どもが多い。また、係の仕事や清掃活動の分担など、任された仕事には意欲的に取り組む子がほとんどである。

しかし、任された仕事には意欲的に取り組むが、自分から何かできることを考え取り組む子は少ない。自分に与えられたことについては、考え、行動できるが、みんなのことを考えて働くことについては意識が向いていないものと思われる。友達が困っていたり、クラスで困ったことが起こったりすると、その対応策として自分から進んで行動できることはあるが、常にみんなのことを考えて働こうという意識があるわけではないように見受けられる。

児童は、1年生の生活科の学習で「しごとにちょうせん」という単元に取り組んだ。低学年のうちから、人のために働くことの楽しさや充実感を味わって、学年が上がってもさまざまな活動へ意欲的に取り組めるようになってほしい、という願いから学年で独自に設定した単元である。引き続き今年度も取り組んでいく計画である。

これまでの取り組みを通して、児童が働くことについてどのように考え、また感じているかを把握するために実態調査を行った。

## 実態調査

○今までみんなのために何かしたことがありますか。

はい（18） いいえ（9）

\*はいと答えた児童（複数回答を含む）

- ・係の仕事・・・・・・・・（5）
- ・家でお手伝い（10）
- ・清掃活動・・・・・・・・（1）
- ・その他（3）・・・（子ども会でのプレゼント、ごみ拾い）

○どうしてそのことをしたのですか。（\*複数回答を含む）

- ・人に頼まれたから・・・・・・・・（5）
- ・自分から進んでやろうと思ったから・・・（17）
- ・自分がやることになっているから・・・（7）

○どんな気持ちで仕事をしていますか。

- ・いい気持ち・・・・・・・・（8）
- ・喜んでほしい・・・・・・・・（2）
- ・しっかり一生懸命やろう・・・・・・・・（8）
- ・楽しいな・・・・・・・・（2）
- ・やらないとだめだからやろう・・・・・・・・（1）
- ・先生にしかられるからやろう・・・・・・・・（1）
- ・うまくできているか心配・・・・・・・・（2）
- ・その他・・・・・・・・（2）

○働いたあとはどんな気持ちになりますか。また、それはなぜですか。

- ・大変だ・・・・・・・・（5）
- ・嬉しい・・・・・・・・（2）
- ・楽しい・・・・・・・・（2）
- ・頑張ったな・・・・・・・・（2）
- ・いい気持ち（6）[すっきりした、きれいになったな、役に立ったな]
- ・上手にできたか心配（1）
- ・その他
- ・わからない（9）

このことから、働くことに意欲はあるが、みんなのために働くことよさを感じて、活動しているわけではない児童も多いことがわかる。楽しい、嬉しいとやりがいを感じている一方、わからないという児童も9名おり、働くことを特に意識せず、ただ目の前にあるからという理由で取り組んでいるようである。

また、意欲的な児童もいる一方で、「やらないといけないから」「上手にできたか心配だ」と消極的で周りからの評価を気にする姿もうかがえる。みんなのために何かをすると、いい気持ちになることを十分に感じられるようにしたり、自分なりの充実感から自分を認めたりできるような心を育てたいと考え、この主題を設定した。

### （3）資料について

本資料は「しょうぼうじどうしゃ じふた」という低学年向けの絵本である。

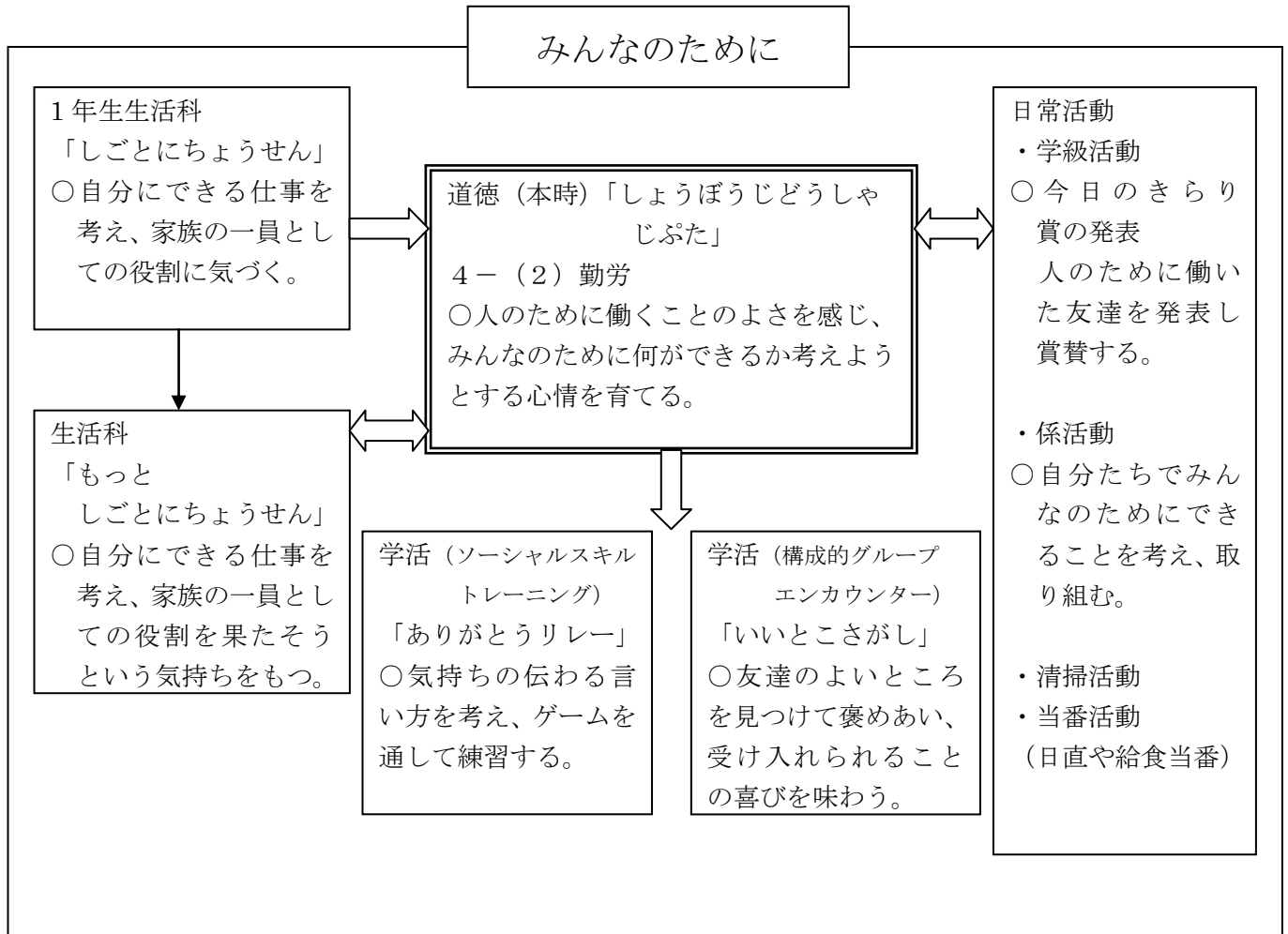
主人公のじふたは古いジープを改良したちびっこ消防車で、普段は性能のよいほかの消防車たちばかりが活躍するのをうらやましく思っていた。しかしある日、山小屋で火事が起こり、険しい山道を行けるじふたに出番がやってくる。山火事を見事に防ぎ、自分にしかできない形でみんなのために働き、活躍するという内容である。

本時では、資料前半のじふたが仕事をもらえない場面と、後半のじふたが仕事を任される場面について、特に注目して取り上げていくことにする。

じふたが仕事をもらえない場面では、じふたが仕事に対する意欲はあるのにまわりに必要とされず満たされない気持ちになっている。やりたい気持ちはあるが、取り組む機会がない場面は子どもたちの生活の中にも似たような場面がある。また、資料中には、仕事をやり遂げたあとのじふたの心情は書かれていない。そこで、その2つの場面のじふたの心情について児童と役割演技をしながら話し合いを進めていく。

まわりと自分を比べ、自信をなくしてしまうじふたの姿を役割演技をしながらじっくり捉えさせることで、終末で人の役に立って嬉しいというじふたの気持ちに深く共感できると考えた。前段と後段のじふたの心情の変容を感じ、その変容の間には「みんなのために働くこと」があったと十分に意識させて、働くことよさを味わわせたいと考えた。

### 3. 指導構想



4. 本時の展開

(1) ねらい

人のために働くことのよさを感じ、みんなのために何ができるか考えようとする心情を育てる。

(2) 展開

過程	学習活動と発問	ねらいにせまる手立て	期待される子どもの姿
導入 (5)	1. 働く自動車について思い出す。	○働くということを意識するために、言葉の意味を確認する。	○ショベルカー。 ○救急車。
展開	①働く自動車にはどんなものがありますか。	○絵をよく見て、じぶたの気持ちを考えながら聞くように声をかける。 ○様子がわかるように、読み聞かせて語り、場面絵を提示する。	○どんなお話かな。
前段 (10)	2. 資料を読んで話し合う。	○ワークシートを活用し、じぶたの思いを自由に書けるようにする。 ○終末で成長した点と比べられるように、このときのじぶたがどのような気持ちでいるかをしっかり確認する。 ○じぶたが、自分のことを人と比べてしか見ていないことをおさえる。	○ぼくもはしごがあれば行けるのに。 ○また一人残るのか。 ○ぼくだって出動したいよ。 ○ぼくも火事を消せるよ。なんで出動させてくれないのかな。
後段 (15)	②ほかのみんなが出動したとき、じぶたはどんな気持ちになったでしょう。	○じぶたと町の子どもの役になり、役割演技をして、じぶたの気持ちを考える。 ○じぶたの気持ちになって発表できるように、お面のついた冠をかぶって話すようにする。 ○じぶたが、自分のことを人と比べずに認めているとおさえる。	○みんな喜んでくれてうれしいな。(じぶた) ○いい気持ちだな。(じぶた) ○みんな、ぼくの本当の力をわかってくれたんだ。(じぶた) ○山火事にならなくてよかったな。(じぶた) ○小さいのにすごいね！(子) ○山道を行って火事を消すなんてカッコいいね。(子)
終末 (15)	3. 今までの自分の生活について振り返り、話し合う。 ④じぶたのように、何かをしていい気持ちになったことはありますか。	○自分のことについて思い出せるように、係り活動や清掃活動などの様子の写真を提示する。 ○ワークシートを活用し、自分の仕事について自分で考えられるように時間を確保する。	○みんなが喜んでくれるからまたやりたいなと思ったよ。
	⑤今日の道徳で思ったことやわかったことを書きましよう。	○2年生として校内や地域でどんなことができるか考えるよう声をかける。 ○友達の発表を聞いて、自分とは違う考えもあることに気づけるようにする。	○係の仕事でもっと難しいものに挑戦してみたいな。 ○頼まれなくても自分で役に立つことを探したいな。